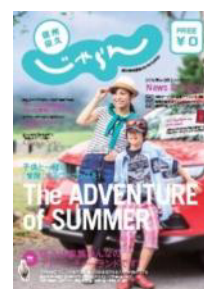


平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久地域着地型観光推進支援事業
事業主体 (連絡先)	佐久地域観光連携協議会 (事務局：佐久広域連合 0267-62-7721)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,251,040 円 (うち支援金：3,000,000 円)

事業内容

- ①軽井沢高原への滞在促進と着地型観光による佐久地域への周遊促進を図るため、人を動かす仕組みづくりのツールとして、旅行者目線に立った情報誌を作成した。
- 夏号 平成26年7月発行 12ページ 3万部
- 冬号 平成26年11月発行 12ページ 3万部
- 特別号 平成27年3月発行 12ページ 3万部
- ②夏号と冬号は「山々に囲まれた自然環境」、特別号は北陸



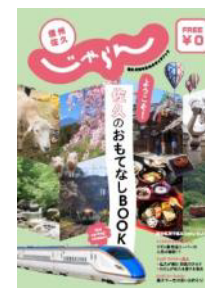
夏号



冬号

新幹線の金沢延伸に合わせて発刊し、北陸圏から佐久地域に初めて訪れる方へ、地域の魅力を紹介する内容となるように配慮した。

- ③特別号の記事で使った写真には、佐久広域連合が長野県元気づくり支援金を利用して行った素材収集事業の写真を活用した。これから訪れる季節の写真を取り入れることで、地域の魅力を効果的に伝えることができる内容に仕上がっている。



特別号

事業効果

- 夏号、冬号、特別号をそれぞれ3万部作成し、佐久広域連合の協力の元、佐久圏域内の市町村や公共施設、道の駅、宿泊施設、別荘管理事務所等のほか、国内旅行者の移動手段の多くが車であることに対応するため、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア、レンタカー営業所へ配布をした。
- 佐久広域連合と連携し、情報誌についてのアンケートを行った結果、約半数の方が、この情報誌をきっかけに訪れた場所があると回答。情報誌の配布が効果的に実施され、佐久地域の周遊に繋がっていることが証明された。
- 配布先には、掲載内容のフォローアップを行い、パンフレットを一層効果的に利用してもらえよう努めた。

【目標・ねらい】

- 観光意向調査や観光動向調査等の結果から、カスタマーの視点から編集する。
- カスタマーが求める情報をベストなタイミングで提供することで、人を動かすことができる仕組みをつくる。
- 特別号の発行については、北陸新幹線の金沢延伸という好機を生かすために、佐久広域連合の素材収集事業と連携する。

※自己評価 【A】

【理由】事業目標を達成し、さらに佐久広域連合と連携して実施したアンケート結果を分析し、情報誌の配布が一層効果的に実施されるよう取り組んだ。

今後の取り組み

- 平成27年3月には北陸新幹線が金沢まで延伸し、5月には川上村出身の油井宇宙飛行士がソユーズで宇宙へ、8月は佐久鉄道開業100周年、秋には日本三選星名所に選ばれた野辺山高原での星空サミット、11月に小海線全線開通80周年を迎えるなど多くのイベントを控えており、これを好機到来ととらえ、観光資源の整備と、さらなる情報発信が重要となってくる。
- 好機到来を捉え佐久地区の魅力効果を余すところなくカスタマーに伝えるために、データに基づく地域で共有された訴求力の高い素材のパッケージを完成させる。